

横浜市廃棄物処理施設生活環境影響調査専門委員会
(令和5年3月開催)

専門委員からの御意見に関する事業者見解について

令和5年5月1日
ジャパンウェイスト株式会社



※令和5年4月1日にアサヒプリテック株式会社からジャパンウェイスト株式会社に変更しました。

項目※	質疑の内容	事業者見解
(7) 臭気の漏えい対策、チェック体制について	施設が稼働したら、日常点検を行うと思いますが、点検項目の中に、異臭の有無についても項目を入れて、職員の嗅覚で毎日チェックするとよいかと思います。	日常点検に臭気チェックの項目を加え、従業員による工場、事業所周辺を定期的に巡視し臭いの確認を行う体制を構築します。
(9) ばいじんの連続測定について	運転監視の連続測定項目に「ばいじん」(浮遊粒子状物質)は入っていないかと思いますが、検討はされていますか。必須ではないとは思いますが、連続測定を行っていただければ、数値の変化によりバグフィルタの濾布の劣化を検知することで、穴あきや破損防止に有効であると思います。そういう事例は他でもあるので、よりよい維持管理のためにも、ご検討いただければと思います。	ばいじん濃度計を排気筒に設置し、バグフィルタの維持管理を行ってまいります。
(11) 感震計の設置位置について	地震対策で感震計を設置されるのですが、施設のどの部分に付けるかで効果に違いがあると思います。揺れやすい場所、揺れにくい場所とありますが、具体的にどこに付けるかは検討されていますか。感震計は1か所のみでなく、複数の箇所に付けて総合的に判断されるとよいと思います。	感震計は建物(供給棟)に設置する計画です。複数案も検討しましたが、メーカーの経験を踏まえ、誤検知が少ないこと、セーフティ側で作動するように機器設定することから、1台で進めていく考えです。ただし、引き続き他工場の事例なども参考にし、安全運転に配慮してまいります。
(12) クレーンの脱輪対策について	廃棄物投入クレーンですが、(地震対策として)脱輪対策は考えられていますか。	クレーンには、走行並びに横行脱輪防止ブラケットを装着し、脱輪対策を講じる計画とします。
(19) 騒音の予測地点と評価方法について	面音源の分割サイズと分割数をどのように設定されたのか教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・面素の分割に際しては、「個別工場立地における騒音予測手法」(通商産業省立地公害局環境アセスメント騒音委員会編、昭和55年11月)の記載を参考に、本計画では、音源となる面素と受音点の距離が概ね20m以上であることから、その距離の1/10程度の面素の大きさとなるように設定しました。 ・面素の分割数は、一つの面について縦横7分割(一つの面を49分割)を基本とし、面素の一边の長さが約2mになるように設定しました。ただし、縦横7分割で一边の長さが約1m以下となる場合は、分割数を減らして一边約2m程度となるように設定しました。 ・建物内部にある音源について、外壁面までの距離、壁面の透過損失等を考慮して、外壁面から屋外へ放射される単位面積当たりの騒音レベルを求め、面素の面積を乗じた騒音レベルを用いて、距離減衰、回折減衰等を考慮した伝搬計算を行っています。

※会議録に記載の「3 まとめ」の番号と一致しています。